Sermon for Sunday December 1, 2024
MIC
Andrew Miller

Waiting Well
しっかりと待ち望む

I recently had the very great pleasure of speaking at one of the most prestigious universities in Japan, thanks to an invitation from one of the finest university lecturers in Japan, Mr Pierre Babineau. I had the opportunity to share with students about the work of Deaf Ministries International and more importantly why we do the work that we do.

先日、日本で最も優れた大学講師の一人であるピエール・バビノ氏の招待により、日本で最も権威のある大学のうちの一つの近畿大学で講義をさせていただきました。私は、大学生たちにデフ・ミニストリーズ・インターナショナル（DMI）の活動について話すことが出来たうえに、大切なこととして、なぜ私たちがこのような活動をしているのかについて話す機会を得ることができました。

On the surface, the answer to that 'why?' question is because the governments of developing countries cannot afford to support the Deaf there, so there is need for us to step in and help. At a deeper level, the reason that we do this work is because of our faith in and love for Jesus.
Specifically, as the Bible words it, "We love because he first loved us". (1 John 4:19)
We love others because the love of Christ motivates and compels us to love others.
We want to show compassion and mercy to others because we have received compassion and mercy from Christ.

「なぜ、そのような活動をするのか？」という質問に対して、表面的な浅いレベルでは、『発展途上国の政府はろう者を支援する余裕がないため、私たちのような支援団体が介入して支援する必要があるからです。』という答えをします。しかし、もっと深いレベルでは、『私たちがこのような活動をしている理由は、イエスへの信仰と愛のためです。具体的には、聖書の言葉にあるように、「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してく

ださったからです。（ヨハネの手紙　第一　４章１９節）」そして、私たちが他者を愛するのは、キリストの愛が私たちを動かし、他者を愛するように駆り立てるからです。
また、キリストから慈悲と憐れみを受けたからこそ、私たちは他者に慈悲と憐れみを示したいのです。』というのが答えです。

So I was both saddened and touched when one of the students listening wrote this in their report: “I was very impressed because I've never heard of a Christian who wants to be merciful like Jesus Christ. I thought all Christians were Christians just to get to heaven.”
すると、私の話を聞いていた生徒の一人が次のように感想文を書いてくれましたが、私はその感想文を読んで、感動したと同時に悲しくなりました。その生徒の感想文には、「イエス・キリストのように憐れみ深くありたいと願うクリスチャンの話を聞いたことがなかったので、とても感動しました。クリスチャンは皆、天国に行くためだけにクリスチャンになるのだと思っていました。」と、書かれていたのでした。

It's certainly true that our end goal is heaven. In Luke 10 we read the following account:
“The seventy-two returned with joy and said, “Lord, even the demons submit to us in your name.”
[Jesus] replied, “I saw Satan fall like lightning from heaven. I have given you authority to trample on snakes and scorpions and to overcome all the power of the enemy; nothing will harm you. *However, do not rejoice that the spirits submit to you, but rejoice that your names are written in heaven*.” Luke 10:17-20

私たちの最終目標が天国であることは確かです。ルカによる福音書 10 章には次のように書かれています。
17 さて、七十人が喜んで帰って来て、こう言った。「主よ。あなたの御名を使うと、悪霊どもでさえ、私たちに服従します。18 イエスは言われた。「わたしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。19 確かに、わたしは、あなたがたに、蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けたのです。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。20 だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではなりません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」（ルカの福音書　１０章１７－２０節）

So clearly, our endgame is entering heaven for eternity. But the thing we must understand is that eternity doesn't start when we die; it starts when we are born again.

Eternal life is a present position. It is effective now. And understanding this will determine the manner in which we wait either for Christ to return or for us to pass away (which ever should come first).

ですから、私たちの最終目的は永遠に天国に入ることであることは明らかです。しかし、私たちが理解しなければならないのは、『永遠の命』とは、死んだときから始まるのではなく、『新しく生まれ変わったたときから始まる』ということなのです。ですから、永遠の命とは、わたしたちが生きている今でも存在しているのです。そして、『新しく生まれかわってから始まる永遠』の意味がわかると、キリストが再臨するのが先か、それとも自分たちがこの世からいなくなるのが先なのかはどうでもよくなり、わたしたちは、『待ち望む』こと自体が大切なのだとわかってきます。

Christian pastor and author Don Carson wrote, "It is one thing to wait for the Lord's coming; it is another to wait well". Today we're going to look at what it means to wait well for the Lord's coming, and we're going to do this by looking at two things:

キリスト教の牧師で作家のドン・カーソンは、「主が来られるのを待つということは、じっくりと（しっかりと）待ち望むということとは別のことである」と書いています。

今日は、主の到来をしっかりと（じっくりと）待つとはどういうことなのか、次の 2 つの項目を見ていきながら考えましょう。

1. Waiting well by living out our purpose, and
2. Waiting well by understanding our purpose

1. 目的をもった人生をおくって、待ち望む
2. わたしたちの目的を理解して、待ち望む

You might think it makes more sense to talk about the understanding of our purpose first and then move onto to living out that purpose. But today I'm going to do it the other way around. I hope the reason for that will become clear to you.

みなさんは、まず 2 つ目の『私たちの目的を理解する』ことについて話し、それから一つ目の『目的をもった人生を送る』ことについて話すという順番の方が理にかなっていると思うかもしれません。しかし今日はあえて、その逆をやってみようと思います。そうすることによって、その理由がさらに明らかになることを願いながらお話ししようと思います。

Waiting for God is an active matter, not a passive one. To wait for God actively means to live out our purpose. We were saved for a purpose beyond just entering heaven. We were saved for a purpose here on earth.

神を待つということは、受動的（受け身）な姿勢ではなく、能動的（積極的）な姿勢を意味します。すなわち、積極的に神を待ち望むということは、私たちが自分の目的をもって生きるということにつながるのです。私たちが救われたのは、ただ天国に入るためだけではありません。私たちは、この地上（この世）での目的のために救われたのです。

The apostle Peter said, “Each of you should use whatever gift you have received to serve others, as faithful stewards of God’s grace in its various forms.” (1 Peter 4:10) This is active waiting (in the context of serving others).

使徒ペテロは言いました。
「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」（ペテロの手紙　第一　４章１０節）
この聖句は、人に仕えるという意味で、積極的に待ち望んでいる姿勢を示しています。

The apostle Paul said, “I can do all this through him who gives me strength.” Philippians 4:13 Again, active waiting (in the context of personal, everyday Christian living).

使徒パウロは言いました。
「13 私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」（ピリピ人への手紙　４章１３節）
この聖句もまた、クリスチャンの個人の生活の日常において積極的に待ち望んでいる姿勢を示しています。

Jesus, getting to the very heart of discipleship said, “Whoever wants to be my disciple must deny themselves and take up their cross and follow me.” (Matthew 16:24) This illuminates the very essence of active waiting. (It’s internal, external and sacrificial).

「それから、イエスは弟子たちに言われた。『だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。』」（マタイの福音書　１６章２４節）この聖句は、積極的に待つことの本質について教えてくれています。それは、『自分を捨て』と私たちの心を表し（内的）、『わたしについて来なさい』

というおもてに出てくる行動を表し（外的）、『十字架を負い』という犠牲（犠牲的）を表しています。

In the Psalms it also says,
"May God be gracious to us and bless us
and make his face shine on us— [why?]
so that your ways may be known on earth,
your salvation among all nations."
Psalm 67:1,2

詩篇にも、次のように書かれています。
１どうか、神が私たちをあわれみ、祝福し、御顔を私たちの上に照り輝かしてくださるように。セラ
２それは、あなたの道が地の上に、あなたの御救いがすべての国々の間に知られるためです。
詩篇　６７篇１、２節

We have a natural inclination to focus on verse 1 more than verse 2. Verse 1 is the blessing. Verse 2 is the reason or purpose for the blessing. Most of us would just rather have the blessing and not have to think about the purpose of the blessing.

詩篇のこの箇所では、私たちは２節よりも１節に注目する傾向があるようです。１節は祝福について書かれており、２節では祝福の理由や目的について書かれています。私たちの多くは、ただ祝福を受けたいだけで、祝福の目的について考える必要はないと思っているのではないでしょうか。

We are blessed (saved) for a purpose beyond just entering heaven. Waiting for the Lord involves showing the compassion and mercy of Jesus to others. It involves sharing the gospel, not our opinions. It involves making God and His ways known to others (as verse 2 says).

私たちが祝福される（救われる）のは、ただ天国に入るためだけではありません。私たちにはこの世での目的があるのです。主を待ち望むということは、イエスの憐れみと慈しみを他の人々に示すということなのです。それは、単に自分の意見を他に伝えるのではな

く、神の福音を伝える（2 節にあるように）ことが含まれますし、神と神の方法を他の人々に知らせることも含まれます。

Our efforts to show the compassion and mercy of Jesus and make God known, will sometimes bring very rewarding responses, and sometimes bring opposition.
Waiting actively for the Lord will sometimes involve an element of suffering and persecution, just as it will sometimes involve great joy.

イエスの憐れみと慈しみを示し、神を知ってもらおうとする私たちの努力は、時には、とても報われることもありますし、時には反発を招いてしまうこともあります。
主を積極的に待ち望むということは、時に苦しみや迫害を伴いますが、時に大きな喜びを伴います。

I’ve bored you enough with some of my own adventures and sufferings. Let me share with you two others

私自身の人生の冒険と苦悩については、前回の説教の中で、もう十分みなさんにお伝えしていますので、今日は、他の人の 2 つの苦難の例を紹介しましょう。

i. Lill Muir, [image] Neville’s widow, was the co-founder of DMI. She said, “My desire is still to share His goodness with others. Sometimes that goes well, sometimes not so well, but I always keep my hope to help people.” I asked her how she coped with many of the hardships she faced along the way. She said, “The first thing is to pray. I have to pray and God hears my prayers. If I hadn’t done that and kept a love for people in my heart, I would have struggled.” Lill is a model of waiting for the Lord and showing, over a lifetime, His mercy to others.

ii. Hatun Tash [image] is another. You can find her online. She is a young woman of Turkish descent, but now of British citizenship. She was once a Muslim and now shares her love for Jesus because she is so in love with Jesus. Because of this she is mercilessly attacked. She has been struck in the face, had her face slashed with a knife, and been abused in other ways. There is a death threat on her life. But she doesn't stop making God known, and showing the compassion and mercy of Christ to others. She says she *can't* stop making God known and sharing the compassion and mercy of Christ to others.

i. DMI の故ネビルさんの妻で、現在は未亡人のリル・ミュアさんは、DMI の共同設立者です。リルさんはこう言います。「私の願いは今もなお、主のいつくしみを他の人々と分かち合うことです。それがうまくいくこともあれば、そうでないこともあるけれど、私はいつも人々を助けたいという希望を持ち続けているの。」
私は彼女に、その分かち合いの中で直面したたくさんの苦難にどのように対処したのですかと尋ねました。すると彼女は、「まず祈ることです。祈れば、神が私の祈りを聞いてくださる。もし、祈ることをせず、人々への愛を自分の心の中に持ち続けることが出来なくなったら、私は苦悩していたでしょう。」と言いました。
リルさんは、主を待ち望み、生涯をかけて主の憐れみを人々に示したという模範なのです。

ii. ハットゥン・ターシュさんも、模範となる一人です。彼女については、みなさんもオンラインで調べることが出来ます。彼女はトルコ系の若い女性ですが、現在はイギリス国籍を持っています。彼女はかつてイスラム教徒でしたが、今はイエスへの愛を人々に分かち合っている人物です。そのため、ハットゥンさんは容赦なく攻撃されました。顔を殴られ、ナイフで顔を切りつけられ、その他の虐待も受けました。命を狙われたこともありました。しかし、彼女は神を知らしめ、キリストの憐れみと慈悲を人々に示すことをやめませんでした。彼女は、他の人々にも神を知ってもらいたい。キリストの憐れみと慈しみを伝えるのをやめることはできないと言っています。

Our desire then, as is Lill's and Hatun's, is to - as the Kindai student said - be merciful like Jesus Christ in displaying the love of God to others.

リルさんやハトゥンさんがそうであったように、私たちの願いは、（近畿大学の学生が言ったように）イエス・キリストのように憐れみ深くなって、神の愛を他の人々に示すことであるべきなのです。

In my experience, the mercy of Jesus is often best expressed, not in a single event, but in perseverance over time and amidst challenges. James writes this in his letter: "As you know, we count as blessed those who have persevered. You have heard of Job's perseverance [and Lill's and Hatun's] and have seen what the Lord finally brought about. The Lord is full of compassion and mercy." James 5:11

私の経験では、イエスの憐れみはしばしば、ひとつの出来事においてではなく、長いあいだ困難を耐えているときに最もよく現れるように思います。ヤコブは手紙の中で次のように書いています。
「見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。あなたがたは、ヨブの忍耐（リルさんとハトゥンさんの忍耐とも言えます）のことを聞いています。また、主が彼になさったことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです。」
（ヤコブの手紙　５章１１節）

My encouragement to you is to be wise and gentle and merciful and loving and *to persevere* as you make God known. Don't withdraw when the going gets tough or when you face rejection. In 1 Corinthians 3, Paul talks about the quality of our work being tested by fire. "If [our work] is burned up, the builder will suffer loss but yet will be saved—even though only as one escaping through the flames." (1 Cor 3:15) Don't be one who escapes through the flames. Be one whose work lasts through eternity.

私は今朝、賢く、優しく、憐れみ深く、愛に溢れ、神を知らしめるために忍耐強くなってくださいと、みなさんを激励したいと思います。たとえ困難な状況や拒絶に直面しても、引き下がらないでください。コリント人への手紙第一３章で、パウロは私たちの仕業が火によって試されることについて語っています。「もしだれかの建てた建物（わたしたちの仕業）が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。」（コリント人への手紙　第一　３章１５節）

Again, don't withdraw. We have not been given a spirit of timidity. Get bold. Like the disciples did in Acts chapter 4. When faced with persecution, they got together and prayed, "Now, Lord, consider their threats and enable your servants to speak your word with great boldness. Stretch out your hand to heal and perform signs and wonders through the name of your holy servant Jesus."

繰り返しますが、引き下がってはいけません。私たちには、臆病な精神など神から与えられていないのです。使徒の働き４章で弟子たちが働いたように、大胆になってください。そして迫害に直面したときは、使徒たちは集まって次のように祈りました。
「主よ。いま彼らの脅かしをご覧になり、あなたのしもべたちにみことばを大胆に語らせてください。御手を伸ばしていやしを行わせ、あなたの聖なるしもべイエスの御名によって、しるしと不思議なわざを行わせてください。」（使徒の働き４章２９、３０節）

Listen to that again and see how they wait for God:
*Now, Lord, consider their threats and enable your servants to speak your word with great boldness. (**Pray**). Stretch out your hand to heal (**Mercy and compassion**) and perform signs and wonders (**Make God known**) through the name of your holy servant Jesus (**God glorified**).*

もう一度使徒の働き 4 章を読んで、使徒たちがいかに神を待ち望んでいるかを見てください。

「主よ。いま彼らの脅かしをご覧になり、あなたのしもべたちにみことばを大胆に語らせてください。(祈りを意味します）御手を伸ばしていやしを行わせ（憐れみと慈しみを意味します）、あなたの聖なるしもべイエスの御名によって（神の栄光を意味します）、しるしと不思議なわざを行わせてください（神を知らしめることを意味します）。」

It's good to emulate/copy Christians we admire. Those Christians we emulate - maybe Lill, maybe Hatun, maybe some in this room, certainly the example of the early disciples - help us to live out our purpose in waiting for the Lord:

みなさんが、自分が尊敬するクリスチャンを模倣することは良いことだと思います。 私たちが模範とするクリスチャンは、リルさんかもしれないし、ハトゥンさんかもしれないし、今この部屋にいる人かもしれないし、初期の弟子たちが私たちの模範になるかもしれません。彼らは、『主を待ち望むという私たちの目的』を果たす助けとなります。

We persevere in showing the love and compassion of Jesus to others, in big and small ways, building eternal riches, as we wait for Jesus.

私たちは、イエスを待ち望みながら、イエスの愛（いつくしみ）と憐れみを他の人々に示し、忍耐強く永遠の富を築こうではありませんか。

So, that's living out our purpose. Now let's look at:
つまりそれが、私たちの目的を果たすということにつながります。

Understanding our purpose

では次に、『わたしたちの目的を理解する』ということについて見てみましょう。
わたしたちの目的を理解する

The tricky thing here, and the reason I'm talking about understanding our purpose *after* talking about living out our purpose, is because the manner of living out our purpose can actually led us to a misunderstanding of our purpose.

ここで、なぜわたしが『目的をもった人生を送る』という話の後に『目的を理解する』という話をするのかというと、『目的をもった人生を送る方法』が、実は、私たちの目的を誤解させることになりかねないからなのです。

The great theologian James Packer expresses his serious concern in this area. He is rightly worried that many Christians set themselves up for failure with unrealistic expectations of our new selves and our new lives in Christ. When we first come to Christ there is often a honeymoon period. Everything works out well. Our lives are changing. Old sinful habits are left behind and new, healthy, exciting ways of living begin.

偉大な神学者ジェームズ・パッカーは、『目的を理解する』ということについて深刻な懸念を表しています。ジェームズは、多くのクリスチャンがキリストによって新しく生まれ変わった自己（自分）と、新しい人生に対して、あまりにも非現実的な期待を抱いてしまい、自分自身を失敗へと導いているのではないかと心配しているのです。なぜなら、私たちが初めてキリストを知ったときは、しばしば「ハネムーン期」と呼ばれる期間があります。キリストに出会ってすべてがうまくいって、私たちの人生は変わっていく。古く罪深い習慣は捨て去られ、新しく健康的で刺激のある生き方が始まると言ったように感じる時期のことを指します。

Internally, we cradle the thought that 'I won't sin any more'! That part of my life is over! Externally, we create expectations and work towards ministries that are vibrant and successful.

そんな時わたしたちは、心の中では、「もう罪を犯さない」という思いを抱いているに違いありません。私の人生のその部分（罪）は終わった（なくなった）のだという思いになります。そして、期待を抱き、活気と成功をもたらすミニストリー（奉仕活動）に向けて私たちは努力することでしょう。

But Satan is at work, prowling around like a lion, waiting to devour. More importantly, God is also at work, allowing us to be tempted, allowing us to fail, disciplining us when

we fall - and fall again, we will. In fact, sometimes we experience, after we begin our Christian journey, *more* temptation and *greater* failure - within our selves and in our efforts to show mercy and compassion to others.

しかしサタンはいつも働いており、ライオンのように徘徊し、わたしたちを食い尽くそうと待ち構えているのです。さらにもっと重要なことは、神もまた同様に働いておられるということです。神は、私たちが誘惑されることを容認し、失敗することを容認し、私たちが堕落したときには私たちを懲らしめるのです。実際、私たちはクリスチャンの道を歩み始めた直後に限って、より多くの誘惑とより大きな失敗を経験してしまうのではないでしょうか。例えば、自分の人生における失敗や、他者に慈悲と思いやりを示そうとしたのに失敗したという経験のことです。

Why does this happen? Why does God allow this to happen to us? Why do *we* allow this to happen to *ourselves*? Paul is just as perplexed as we are:

なぜこのようなこと（誘惑や失敗）が起こるのでしょうか？なぜ神は、私たちにこのようなことが起こるのを容認するのでしょうか？なぜ私たちはこのようなこと（誘惑や失敗）をしてしまうのでしょうか？
パウロも当時、また私たちと同じように当惑していました。

I have the desire to do what is good, but I cannot carry it out. For I do not do the good I want to do, but the evil I do not want to do—this I keep on doing. Now if I do what I do not want to do, it is no longer I who do it, but it is sin living in me that does it. So I find this law at work: Although I want to do good, evil is right there with me. For in my inner being I delight in God's law; but I see another law at work in me, waging war against the law of my mind and making me a prisoner of the law of sin at work within me. What a wretched man I am! Who will rescue me from this body that is subject to death? Romans 7:18b-24

私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。
19 私は、自分でしたいと思う善を行わないで、かえって、したくない悪を行っています。
20 もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行っているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。
21 そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。

22 すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、
23 私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。
24 私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。（ローマ人への手紙　７章１８－２４節）

Paul's response to this dilemma is to praise God:
このジレンマに対して出したパウロの答えは、神を賛美することでした。

25 *Thanks be to God, who delivers me through Jesus Christ our Lord!*
25 私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。

God allows these challenges and frustrations so that, simply, we may learn to rely on Him more, and not ourselves. Packer captures this more fully in his book *Knowing God*. He says that we develop unrealistic expectations of our new selves and our new lives in Christ because of 6 things:

神がこのような困難や挫折が私たちの人生に起こることを容認されるのは、簡単に言えば、『私たちが自分自身に頼るのではなく、もっと神に頼ることを学ぶため』なのです。神学者パッカーは自身の著書、『*Knowing God*（神を知る）』の中で、このことをより深く捉えています。彼は、新しい自分やキリストにおける新しい人生に対して、私たちが非現実的な期待を抱いてしまうのは、次の 6 つのことが原因だと言っています。

"we do not understand New Testament teaching on sanctification and Christian warfare,
we do not understand the meaning of growth in grace,
we do not understand the operations of indwelling sin,
we have confused the Christian life on earth with the Christian life as it will be in heaven,
we misconceived the psychology of Christian obedience (Spirit-prompted activity, not Spirit-prompted passivity).
But most of all we lose sight of the method and purpose of Grace."

「キリスト信者が聖くされたことによって起こる霊的な戦いについての教えが新約聖書に書かれているのに、その教えを理解していないから、
恵みの中で成長することの意味を理解していないから、
私たちに内在する罪の働きを理解していないから、
この世でクリスチャンとして生きることと、天国でクリスチャンとして生きることを混同しているから、
クリスチャンが従順でありたいと思う心理を誤解しているから、（聖霊が働いてくれるから私たちは従順になれるが、聖霊が働いてくれるからと言って自分は何もしなくて良いというわけではない。）
しかし、何よりも私たちは、恩寵（神の恵みやいつくしみ）を受ける方法と目的を見失っているからなのである。」

Avoiding the *unrealities* of the Christian faith - that we will rarely fail once we become Christians - is an important part of growing in our faith and an important part of understanding our purpose as we wait for the Lord. By understanding the *realities* of the Christian faith, we come to understand God's grace all the more and we glory in it and Him.

ですから、クリスチャンになればめったに失敗することはないというキリスト教信仰の非現実的な考えを避けなければなりません。そのような考えを持たないことは、私たちが信仰を成長させるために大切であり、主を待ち望む私たちの目的を理解するための重要な要素となります。そのようにキリスト教信仰の現実を理解することによって、私たちは神の恵みをより深く理解できるようになり、その恵みにも神にも栄光を帰することができるようになるのです。

Waiting well for the Lord involves living out our purpose and understanding our purpose. Yes, our endgame is heaven, but our current game is demonstrating the love and compassion of Jesus to those around us in bold but realistic ways. And the way we play our current game - the way that we wait for heaven - will ultimately depend on what we understand heaven to be.

じっくりと（しっかりと）主を待ち望むことは、『目的をもった人生を送り』、『私たちの目的を理解』することです。たしかに、私たちの最終目標は天国ですが、いま私たちがしなければならないことは、堂々とそして具体的な方法でイエスの愛（いつくしみ）と憐れみを周囲の人々に示すことなのです。そして私たちが『この世での働きをどのように行

うか』、つまり『天国をどのように待つか』は、結局のところ、天国をどのように理解するかにかかっているのです。

John Piper has written a book called ‘God is the Gospel’ which he has made free online in pdf format. I recommend it. He says this (and listen carefully because this has challenged me more than anything I have read in a long time):

米国の神学者であるジョン・パイパーは『God is the Gospel（神は福音である）』という本を書いていますので、みなさんにその本を読むことをお薦めします。彼はその著書の中でこう言っています。（この本は、私が長い間たくさん読んできたどの本よりも理解するのが難しい本だったので、注意して聞いてほしいと思います。）

The critical question for our generation—and for every generation— is this: If you could have heaven, with no sickness, and with all the friends you ever had on earth, and all the food you ever liked, and all the leisure activities you ever enjoyed, and all the natural beauties you ever saw, all the physical pleasures you ever tasted, and no human conflict or any natural disasters, could you be satisfied with heaven, if Christ were not there?
John Piper, God is the Gospel

私たちの世代、そしてすべての世代にとって重要な問題は次のようなことです。
「もし、あなたが天国に行くことができたとして、そこには病気もなく、地上にかつていた友人たちがいて、あらゆる食べ物があり、あらゆるレジャーを楽しむことができ、すべての自然の美しさを見ることができ、すべての肉体的な喜びを味わうことができ、人間同士の争いや自然災害もなかったとしたら、あなたははたして天国に満足できるだろうか？」
ジョン・パイパー『God is the Gospel（神は福音である）』

Be honest. Could you be satisfied with heaven (however wonderful it was), if Christ were not there?
The answer must be ‘no’! Otherwise we are just loving the blessings but not the blesser!
We would have a Santa Claus faith that says, ‘Just give me what I want and then go away for another year.’

正直に答えてください。たとえ天国がどんなに素晴らしいものであったとしても、もしキリストが天国にいなかったら、あなたは天国に満足できますか？
あなたの答えは「ノー（いいえ）」に違いないでしょう。そうでなければ、私たちは祝福を愛しているだけで、祝福者を愛していないことになるのですから。
そうでなければ、私たちはただ祝福を愛しているだけで、祝福する者を愛していないことになるのです。とうことは私たちは、「私の欲しいものだけ与えてくれれば、また一年いなくなってくれてもいいですよ。」というサンタクロース的な信仰を持っていることになってしまいます。

Waiting well for God means

- Actively sharing the mercy and compassion of Jesus with others
- Having a realistic understanding of our purpose and coming to know the wonderful place and work of grace in our lives
- Learning to fall in love with Jesus all over again.

神をしっかり待ち望むということは
- イエスの憐れみと慈しみを積極的に他者と分かち合うこと
- 自分の目的を現実的に理解し、自分の人生における恵みの働きを知り、天国という素晴らしい場所があることを知ること
- イエスと再び恋に落ちることを学ぶこと

I hope this message reinvigorates your faith and sharpens your spiritual senses so that you can say with all your heart and demonstrate in the way you wait for the Lord, ‘I love Jesus more than anything else in this world’.

Pray.

今日のこのメッセージによって、あなたの信仰が再びふるい起こされ、霊的な感覚が研ぎ澄まされ、あなたが主を待ち望むことによって、『私はこの世の何よりもイエスを愛しています。』と心から言うことができ、行動で示すことができるようになることを願っています。

祈りましょう。